

保護者の皆さん

地域の皆さん

園の皆さん

ニコニコガイド

共に 育みましょう!! 花巻市の子どもたちを

今年度のテーマは「やさしい子ども」の育成。花巻市保育・教育アドバイザーと小学校の校長先生に子育てのヒントをいただきました。



気持の安定は、日々の基本的生活習慣から生まれます。花巻の子どもたちの実態は…?市内の園に在籍している5歳児の保護者にご協力をいただき、令和4年2月に調査を実施しました。

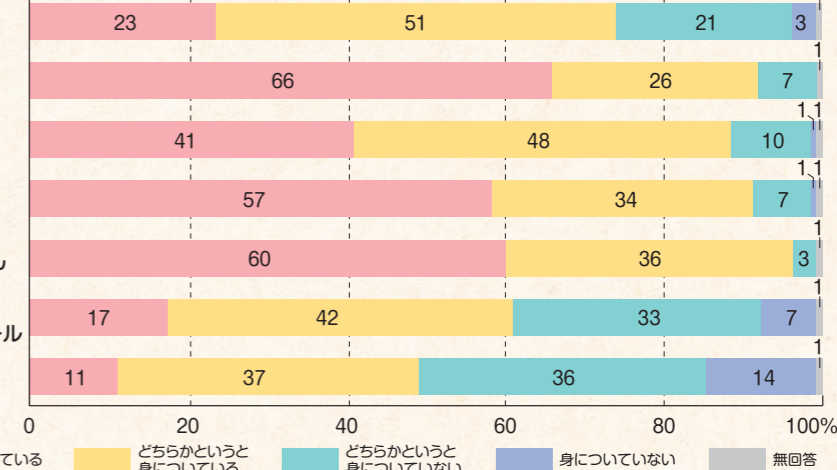
令和3年度 家庭の教育力に関する調査

令和4年2月実施

花巻市の子どもたちは、朝ごはんをしっかり食べて、その後の歯磨きも頑張っています。また、コロナ禍で家にいる時間も増えていますが、それを生かして家族との団らんも大事にしていることが調査結果からわかりました。これは、近年同じ傾向にあります。

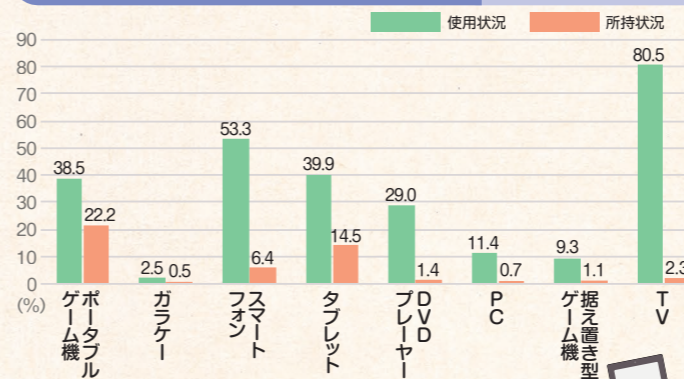
一方で、少しずつ苦手となってきているのが早寝・早起きです。一日を元気に過ごすためにも「早寝」を大切にしていきたいですね。

また、「動画視聴・ゲームの使用のルールを守る」ことや「お手伝い」をさせることに難しさがあるようです。これも近年同じ傾向にあります。



デジタル機器の使用・所持状況

調査対象のうち、デジタル機器を使用している97.7%の子どもの使用状況(複数回答)



日常生活と切り離すことはできないデジタル機器。小学校でも学習に使用しています。しかし、使い方を間違えると大きなトラブルや依存にもつながる機器です。小さい頃から「ルールを決めて守る」がますます重要になっています。

花巻市の子どもたちの所持と使用状況を調査しました。ゲーム機、スマートフォン、タブレット、DVDプレーヤーの使用が多くなっています。

所持の状況はタブレットの所持が年々増えています。

花巻市の子どもたちをよりよく育てるためにはどんな関わりが大切なんだろう? 先生方のお話を聞いてみよう!!



「やさしい子」を育てるポイント

～やさしいこども～

6歳～

～乳幼児期からのつながりを大事にした小学校教育の現場から～

多くの小学校では、「豊かな心」を教育目標に掲げ、教育活動全体を通して指導しています。その中から、やさしい子を育てるポイントを4つ紹介します。



花巻市立花巻小学校
校長 菅野 広紀 さん

POINT 笑顔

子ども達は、笑顔の先生や友達に集まる傾向があります。笑顔はみんなを笑顔にして、幸せな気持ちにする効果があるからです。笑顔ある授業は、自由に発言する雰囲気をつくります。反対に、無表情は子どもを不安な気持ちにします。先生方は児童全員にあたたかな視線を向け、安心感を与えています。



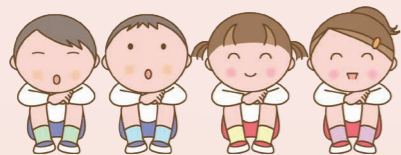
POINT 共感

「先生見て。銀杏の葉っぱきれいだよ。」
「ほんとだ、黄色い葉っぱきれいだね。」
子どもの気持ちに共感することで、子どもは満足そうに教室に向かいます。
転んで泣いている子どもがいたら、「痛いね、痛いね。」と声をかけ、一緒に保健室へ。
少し笑顔が戻ってきます。



POINT ほめる

やさしい子を育てるために、子どもの行動に注目します。そして「好ましい行動」「好ましくない行動」「危険な行動」に分類します。「好ましい行動」をみつけたら「静かに座っているね」のように具体的にほめます。「好ましくない行動」は見て見ぬふりをします。ほめることにより、好ましい行動が増えます。



POINT チーム

小学校では、担任だけで悩むことがないよう情報共有に努め、組織的に指導に当たっています。効果がないときは、修正を重ね子どもに合った指導を探していきます。

やさしい子を育てるためには、まわりの大人が支え合うことが大切です。一人で悩みを抱え込むことのないよう、相談しやすいチームをつくることです。



キーワードの「笑顔」「共感」「ほめる」「チーム」は、どの年齢でも大切にしたいことです。「チーム」は、家庭内でのチーム、家庭と園・学校とのチーム、家庭と園・学校と地域とのチームなどたくさんのチームがあります。みんなで支え合いながら、「共に育みましょう!!花巻市の子どもたちを」を合言葉に「やさしい子」を育てていきましょう。



相談窓口は
こちら!



教育や子育てに関するご相談・ご意見等お受けしています。気軽にお電話下さい。

花巻市教育委員会 TEL.0198-45-1311

- 学校教育課(内線362) gakkyo@city.hanamaki.iwate.jp
- こども課(内線342) jidou@city.hanamaki.iwate.jp
- こどもセンター(Tel.0198-21-4388)

ニコニコガイドのバックナンバー、家庭の教育力に関する調査の詳細な結果は市HPでご覧いただけます。

● デジタル機器を使用している子どもの使用時間
平均 平日約65分・休日約134分

～やさしいこども～
0,1,2歳



0,1,2歳は人生で最もドラマチックな時代!



～ねんね～はいはい～歩行 と、体は基本的成長を遂げ、脳は大人の80%まで完成するこの時を丁寧に大切に育てましょう～

注:この文に使われている「ママ」とは赤ちゃんを取り巻く特定の大人すべての総称として使っています。



ひよこ保育園副園長
花巻市保育・教育アドバイザー
小田中 清子 さん

いたあ～



さかさまにだって着れちゃう

爆発!



やっぱり仲良し

赤ちゃんは一人の立派な人間です。

何もできないけれど何でも感じています。

ママがニコニコ顔だと「ここは安全なところなんだ」と分かります。気持ち悪かったり、寂しくなると赤ちゃんは泣いてママに知らせます。そんな時ママがすぐに飛んできてぎゅっと抱きしめたり、おむつを交換してくれたり、「いないいないばあ!」をしたりして楽しく遊んでくれるとますますママが大好きになります。ママは困った時に必ず助けてくれる信頼できる人となります。

赤ちゃんは人を信じる、自分を好きになる力がここから湧いてくるのです。このことが人生を支えていく大きな力の源になります。(非認知能力の源)喜ぶことを一緒に喜んであげ、悲しむことを一緒に悲しんであげましょう。

ちょっと大きくなってきたらユーモアも共有しましょう!

一緒に面白いことを共有してあげると受け入れられている喜びを感じます。明るく伸びやかに育っていきます。言葉も少しずつ増えてきます。

この時期の子どもは日々の経験を乏しい語彙で表現するので大人の意表をつく使い方をします。この時期の子どもだけが見せる言葉のきらめきに感動します。時にはゆっくり子どものお話を聞いてあげるのもいいですね。より愛おしく思えます。

もう少し大きくなると「自分で～」「自分が～」「ぼくの～」 「ぼくだって～」と自己主張が始まります。感情が大爆発することもあります。ママはとっても大変!と思う時期に突入です。でも、この時期があることで徐々に自分の気持ちをコントロールしたり、相手の気持ちに気がついたりする大切な爆発なのです。

「わがママ」でもなく「いじわる」でもない発達過程の一コマです。

「そうかあ〇〇したかったんだね」「きもちはよくわかったよ」と一旦受け入れてあげましょう。爆発がおさまってからお話ししましょう。すべてが～やさしいこども～への一歩です。

大人がしてあげたように子どもは誰かにしてあげるので。そのことが児童期、思春期に大きく花開きます。



安心～しあわせ～



「まっしろってかわいいね」



ねえねえ なあに



ばあ～

～やさしいこども～
3,4,5歳



友だちと遊びの中で育つ3,4,5歳児



市内のほとんどの3歳以上の子どもがそれぞれの園で集団生活を経験しています。園で子どもたちは、どのようなことを学んでいるのでしょうか。



花巻市保育・教育アドバイザー
藤本 誠子 さん



身の回りのことがある程度一人でできるようになり、友達に関心が向いてくる3歳前後。「〇〇ちゃんが私のシャベルとった」「だって欲しいんだもん」ものの取り合いになったり「先生、あの子が持っているのどこにあるの?」友だちのことが気になったりしてきます。そして、同じように動いたり、同じ言葉を繰り返したりして、時々顔を見合わせにっこり。「この子もおんなじだ」「一緒にいたいな」という気持ちがいっぱいになってきているのでしょうか。

園では豊かな環境の中で、好きな友達と遊ぶ楽しさを繰り返せるように心掛けています。

カエル、カタツムリなどの小さな生き物の飼育、春探しの散歩、秋には落ち葉のシャワー、冬には雪山のぼり等を体験し、自然に触れ、友達と驚きや発見等の感動を共感します。また、一緒に絵本を読んで空想の世界を楽しみます。こうして、友達や先生と一緒に笑ったり、驚いたりすることで多くの人と心を通じ合わせる楽しさで心をいっぱいにしていきます。



「先生、〇〇ちゃんと遊びたいけど遊んでくれない」よく耳にする言葉です。好きな友達ができ、自分は遊びたいけど相手は…。これは、「いじわる」ではなくお互いに自分を出そうとしている発達過程の一コマです。

「私は、このお家で遊びたいの」「そうか、砂場じゃなくてこのお家で遊びたいんだ」先生はお互いの思いに気付けるように言葉を掛けます。「あたしもここで遊んでいい?」「いいよ」まだ、自分の気持ちをうまく表現できないけれど、大人の仲介があるとお互いに自分の気持ちを言葉で話せるようになります。そして、友だちの思いに触れていきます。このように、自分以外の人の気持ちに触れることで「人と関わる力」が育まれていくのです。



入学を控えた5歳児は、自分たちで遊びを進めていくようになります。

秋頃のことです。リレーをして遊んでいた7,8人。浮かない表情をしていた子に先生が声を掛けると「後ろを走ってみたいの」との声。すると他の子も「いつも◇君ばかり後ろ走ってずるい」「あっ、私も本当はそう思っていた」と不満を口にする。「だって、みんないいっていったよ」と◇君も言い返す。押し込んでいた気持ちを出したことでリレーは中断。しかし、「友達とリレーをやりたい」という思いが原動力となり、話し合いをはじめた。結果、子どもたちは「それじゃあ、今度は後ろはわたしね。次は〇〇ちゃんね」とリレーを繰り返していた。



このように「ちょっと困ったこと」があっても、心を揺り動かし、やわらかな心で、この友達とより楽しく遊べるにはどうしたらいいのか考え、問題をクリアしていきます。

運動会、発表会などに至るまでには、一人一人の子にたくさんのエピソードがあります。それぞれの園では、その子どもの様子をお便りなどでお知らせしています。それをお子さんとの「おしゃべり」のヒントにしてみるのはいかがでしょうか。家族と話し振り返ることは、子どもの成長を支える大事な土台となります。